注３ **大学番号：私178**

届出

［平成29年度設置］

計画の区分：研究科の専攻の設置

注１

名城大学大学院　理工学研究科　メカトロニクス工学専攻

注２

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人名城大学
平成２９年５月１日現在

作成担当者

担当部局（課）名　経営本部総合政策部

職名・氏名　　課長　鈴木千敏（スズキチトシ）

電話番号　　０５２-８３８-２００４

（夜間）　　０５２-８３８-２００４

Ｆ Ａ Ｘ　　０５２-８３２-２３１７

ｅ－mail　　oosousei@ccmails.meijo-u.ac.jp

（注）１　「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

２　大学院の場合は、表題を「○○大学大学院　・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には，表題には設置時の旧名称を記載し，その下欄に（　　）書きにて，現在の名称を記載してください。
例）　○○大学　△△学部　□□学科
（◇◇学部（平成◇◇年度より学科名称変更））
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例）
・学部の設置の場合：「○○大学　△△学部」
・学部の学科の設置の場合：「○○大学　△△学部　□□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「○○短期大学　△△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「○○大学大学院　○○研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「○○大学　△△学部　□□学科（通信教育課程）」

３　大学番号の欄については，平成２９年３月３１日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

理工学研究科

＜メカトロニクス工学専攻＞　　ページ

１．調査対象大学等の概要等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２．授業科目の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

３．施設・設備の整備状況、経費　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８

４．既設大学等の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

５．教員組織の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13

６．留意事項等に対する履行状況等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　17

７．その他全般的事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18

1　調査対象大学等の概要等

（1）設　置　者

学校法人名城大学

（2）大　学　名

名城大学大学院

（3）大学の位置

〒４６８－８５０２
愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目５０１番地

（注）・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合，本部の位置を（　）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には，複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

（4）管理運営組織

職　　名	設　　置　　時	変　更　状　況	備　　考
理 事 長	（ オガサワラ　ヒ　デ　オ ） 小 笠 原 日 出 男 （平成24年1月）		
学　　長	（ ヨシヒサ　コウイチ ） 吉　久　光　一 （平成27年1月）		
研究科長	（　カトリ　　ヒロアキ ） 加　鳥　裕　明 （平成27年4月）		
専攻 主任教授	（　ヤン　　チェンミン ） 楊　　剣　鳴 （平成29年4月）		

（注）・「変更状況」は，変更があった場合に記入し，併せて「備考」に変更の理由と変更年月日，報告年度を（　）書きで記入してください。
（例）平成２７年度に報告済の内容　→（27）
平成２９年度に報告する内容　→（29）
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば，「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば，そこに赤字で見え消し修正）するとともに，上記と同様に，「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には，「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は，各職に相当する職名の方を記載してください。

（５）　調査対象研究科等の名称，定員，入学者の状況等

（注）・　当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等，定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
・　様式は，平成２７年度開設の博士後期課程の場合（平成２９年度までの３年間）ですが，開設年度・修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が２年以下の場合には欄を削除し，４年以上の場合には，欄を設けてください。）

（５）－①　調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
理工研究科 メカトロニクス工学専攻 （修士課程） 修士（工学）	工学関係	年 2	人 20	人 40	基礎となる学部等 理工学部 メカトロニクス工学科

（注）・「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・定員を変更した場合は，「備考」に変更前の人数，変更年月及び報告年度を（　）書きで記入してください。
・学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
・　「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第２号（その２の１））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

（５）－②　調査対象研究科等の入学者の状況

区分＼報告年度	平成２９年度		平成３０年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A　入学定員	人 20 （－） [－]	人	人 （　） [　]	人		
志願者数	26 （－） [－]	－ （－） [－]	（　） [　]	（　） [　]		
受験者数	26 （－） [－]	－ （－） [－]	（　） [　]	（　） [　]	1.15倍	
合格者数	24 （－） [－]	－ （－） [－]	（　） [　]	（　） [　]		
B　入学者数	23 （－） [－]	－ （－） [－]	（　） [　]	（　） [　]		
入学定員超過率 B／A	1.15					

（注）・　数字は，平成２９年５月１日現在の数字を記入してください。
・　（　）内には，社会人の状況について**内数で**記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
・　「社会人」については，認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
・　[　]内には，留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
・　留学生については，「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により，我が国の大学（大学院を含む。），短期大学，高等専門学校，専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・　短期交換留学生など，定員内に含めていない学生については記入しないでください。
・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は，春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は，その他の学期欄は「－」を記入してください。また，その他の学期に入学定員を設けている場合は，備考欄にその人数を記入してください。
・　「入学定員超過率」については，**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員，入学者数で算出**してください。なお，計算の際は小数点以下第３位を切り捨て，小数点以下第２位まで記入してください。
・　「平均入学定員超過率」には，開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお，計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

（５）－③　調査対象研究科等の在学者の状況

学年＼報告年度	平成２９年度		平成３０年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
１年次	23 [－] (－)	－ [－] (－)	[ ] ( )	[ ] ( )	
２年次			[ ] ( )	[ ] ( )	
計	23 [－] (－)		[ ] ( )		

（注）・　数字は，平成２９年５月１日現在の数字を記入してください。
・　[　　]内には，留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
・　留学生については，「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により，我が国の大学（大学院を含む。），短期大学，高等専門学校，専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・　短期交換留学生など，定員内に含めていない学生については記入しないでください。
・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は，春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は，その他の学期欄は「－」を記入してください。また，その他の学期に入学定員を設けている場合は，備考欄にその人数を記入してください。
・　「計」については，**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数，留学生数**を記入してください。
・（　）内には，留年者の状況について，内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。

（５）－④　調査対象学部等の退学者等の状況

区分 / 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に対する退学者数の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数		
平成29年度入学者	23 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
平成30年度入学者	人	人	平成30年度	人	人		
合　計	23 人	0 人					0.00 %

（注）・ 数字は，平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

・ 各年度の入学者数については，該当年度当初に入学した人数を記入してください。（途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。）

・ 各年度の退学者数については，退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。

・ 留学生については，「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により，我が国の大学（大学院を含む。），短期大学，高等専門学校，専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。

・ 短期交換留学生など，定員内に含めていない学生については記入しないでください。

・「入学者数に対する退学者数の割合」は，【当該対象年度の入学者のうち，平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を，【当該対象年度の入学者数】で除した割合（%）を記入してください。その際，小数点以下第3位を切り捨て，小数点以下第2位までを記入してください。

・「主な退学理由」は，下の項目を参考に記入してください。その際，「就学意欲の低下（〇人）」というように，その人数も含めて記入してください。

（記入項目例）・就学意欲の低下　・学力不足　・他の教育機関への入学・転学　・海外留学
・就職　・学生個人の心身に関する事情　・家庭の事情　・除籍　・その他

２　授業科目の概要

＜理工学研究科　メカトロニクス工学専攻＞

（１） 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
システムデバイス学	応用電磁気学特論	１前		2		1					
	電子デバイス学特論	１後		2		1					
	計測システム学特論	１前		2			1				
	制御システム学特論	１後		2			1				
	システムデバイス学特別演習・実験ＩＡ	１前		2		1	1				
	システムデバイス学特別演習・実験ＩＢ	１後		2		1	1				
	システムデバイス学特別演習・実験ⅡＡ	２前		2		1	1				
	システムデバイス学特別演習・実験ⅡＢ	２後		2		1	1				
	先端信号処理学特論	１後		2		1					
センシングシステム学	センシングシステム特論	１前		2		1					
	知能センサ学特論	１後		2		1					
	ロボットシステムデザイン学特論	１前		2			1				
	知能ロボット学特論	１後		2			1				
	センシングシステム特別演習・実験ＩＡ	１前		2		1	1				
	センシングシステム特別演習・実験ＩＢ	１後		2		1	1				
	センシングシステム特別演習・実験ⅡＡ	２前		2		1	1				
	センシングシステム特別演習・実験ⅡＢ	２後		2		1	1				
	情報メカトロニクス学特論	１前		2							兼1
機能システム構築学	知能システム制御工学特論	１前		2		1					
	制御工学特論	１後		2		1					
	機能システム構築学特別演習・実験ＩＡ	１前		2		1					
	機能システム構築学特別演習・実験ＩＢ	１後		2		1					
	機能システム構築学特別演習・実験ⅡＡ	２前		2		1					
	機能システム構築学特別演習・実験ⅡＢ	２後		2		1					
	移動システム学特論	１後		2			1				
	強度解析モデリング特論	１前		2							兼１
	機能システム学特論	１前		2							兼１
マルチスケールメカトロニクス	ナノ・マイクロシステム制御特論	１前		2		1					
	ナノ・マイクロ知能システム特論	１後		2		1					
	マイクロロボット学特論	１前		2			1				
	ナノ・マイクロ制御システム特論	１後		2			1				
	マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ＩＡ	１前		2		1	1				
	マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ＩＢ	１後		2		1	1				
	マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ⅡＡ	２前		2		1	1				
	マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ⅡＢ	２後		2		1	1				
	医療機械システム特論	１後		2							兼１
	バイオシステム特論	１前		2							兼１
共通科目	アドバンスト・インターンシップ	１後		2		1					
	科学技術英語	１前		2							兼５
	特別講義Ⅰ	１・２前		2			1				
	特別講義Ⅱ	１・２前		2			1				

（注）・　認可申請書の様式第２号（その２の１）に準じて作成してください。
・　設置認可時の授業科目全て（兼任，兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で，前年度報告時（平成２８年度に認可（届出）された大学等は設置認可（届出）時）より変更されているものは赤字見え消し修正し，「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
　なお，昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については，見え消しのまま黒字にしてください。
・　兼任，兼担の教員が担当する授業科目については，備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
・　授業科目を追加又は内容を変更する場合で，専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては，「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には，「平成〇年〇月　提出予定」と記入してください。）
・　「配当年次」について，設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成１９年度認可以前）についても，設置認可時の状況を黒字で記入してください。また，前年度報告時より修正があれば，赤字で見え消し修正をしてください。
・　履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

（２）授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
0	41	0	41	－ [　－　]	－ [　－　]	－ [　－　]	－ [　－　]	変更なし

（注）・　未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに，［　］内に，設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：１科目減の場合：△１）

（３） 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

（注）・　設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
・　履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。
・　教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

（４） 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

（注）・　設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
・　教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

（５） 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

（注）・　授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

（６） 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = 0.00\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て，小数点以下第２位までを記入してください。
・　「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

３　施設・設備の整備状況，経費

区　　分		内　　容				備考
(1) 校地等	区　　分	専　　用	共　　用	共用する他の学校等の専用	計	~~校地：八事キャンパス17,553㎡・可児キャンパス48,782㎡・ナゴヤドーム前キャンパス17,937.07㎡を含む。~~ ~~（借用地）貸与者：蒲郡市 借用期間：平成16年6月1日から25年10ヶ月間（200㎡）~~ 下記3点に伴う、専用面積の減少（29） ・蒲郡市からの申出による借用契約終了、区分変更（その他→校舎敷地） ・可児市からの申出による一部売却より、校舎敷地面積の増加及びその他面積の減少 ・学部移転に伴う、キャンパスの閉鎖による専用面積の減少
	校舎敷地	180,763.77㎡ ~~222,617.33㎡~~	0.00㎡	0.00㎡	180,763.77㎡ ~~222,617.33㎡~~	
	運動場用地	167,348.29㎡ ~~174,962.29㎡~~	0.00㎡	0.00㎡	167,348.29㎡ ~~174,962.29㎡~~	
	小　　計	348,112.06㎡ ~~397,579.62㎡~~	0.00㎡	0.00㎡	348,112.06㎡ ~~397,579.62㎡~~	
	その他	129,642.60㎡ ~~157,916.92㎡~~	0.00㎡	0.00㎡	129,642.60㎡ ~~157,916.92㎡~~	
	合　　計	477,754.66㎡ ~~555,496.54㎡~~	0.00㎡	0.00㎡	477,754.66㎡ ~~555,496.54㎡~~	
(2) 校　　舎		専　　用	共　　用	共用する他の学校等の専用	計	~~校舎：八事キャンパス38,644.80㎡・可児キャンパス12,810㎡を含む。~~ 下記2点に伴う、専用面積の変更（29） ・新築建物建設（1棟）及び用途変更（1棟）による専用面積の増加 ・学部移転に伴う、キャンパスの閉鎖による専用面積の減少
		232,261.33㎡ ~~238,413.83㎡~~ (238,413.83㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	232,261.33㎡ ~~238,413.83㎡~~ (238,413.83㎡)	
(3) 教　室　等		講　義　室	演　習　室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 下記2点に伴う、部屋数の変更（29） ・新築建物建設（1棟）による部屋数の増加 ・学部移転に伴う、キャンパスの閉鎖による部屋数の減少 教育効果向上のため、補助職員を増員（29）
		171室 ~~187室~~	154室 ~~187室~~	231室 ~~230室~~	26室 ~~29室~~ （補助職員 11人）	5室 13 （補助職員 ~~5~~人）	
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室　　数		
		理工学研究科　メカトロニクス工学専攻		7　　室		
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図　　書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標　　本 点	大学全体での共用分 図書 〔360,853〕 ~~〔362,297〕~~ 学術雑誌 〔340,481〕 ~~〔338,244〕~~ 電子ジャーナル 〔18,930〕 ~~〔23,653〕~~ 視聴覚資料 〔16,442〕 ~~〔16,342〕~~ 機械・器具 〔793〕 図書、学術雑誌、電子ジャーナル及び視聴覚資料の整備計画変更に伴う変更（29）
	理工学研究科 メカトロニクス 工学専攻	362,297〔72,417〕 (360,853〔72,170〕) ~~(362,297〔72,417〕)~~	13,498〔10,914〕 (7,263〔259〕) ~~(13,498〔10,914〕)~~	13,360〔10,852〕 (7,189〔189〕) ~~(13,360〔10,852〕)~~	16,342 (16,442) ~~(16,342)~~	5,011 (4,963)	82 (81)	
	計	362,297〔72,417〕 (360,853〔72,170〕) ~~(362,297〔72,417〕)~~	13,498〔10,914〕 (7,263〔259〕) ~~(13,498〔10,914〕)~~	13,360〔10,852〕 (7,189〔189〕) ~~(13,360〔10,852〕)~~	16,342 (16,442) ~~(16,342)~~	5,011 (4,963)	82 (81)	
(6) 図　書　館		面　　積		閲覧座席数		収納可能冊数	大学全体 面積、閲覧座席数及び収納可能冊数の確定による変更（29）
		15,504.27㎡ ~~16,947.65㎡~~		1,668席 ~~1,526席~~		1,575,305冊 ~~1,531,877冊~~	
(7) 体　育　館		面　　積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体 学部移転に伴う、キャンパスの閉鎖による面積の減少（29）
		8,345.18㎡ ~~10,128.26㎡~~		テニスコート		プール	

(8) 経費の見積り及び維持方法の概要								
経費の見積り	区　　分	開設年度	完成年度	区　　分	開設前年度	開設年度	完成年度	予算の変更に伴う共同研究費等の変更（29）
	教員１人当り研究費等	478千円	478千円	図書購入費	32,054千円	33,225千円 ~~32,054千円~~	33,225千円 ~~32,054千円~~	
	共同研究費等	20,850千円 ~~20,448千円~~	20,850千円 ~~20,448千円~~	設備購入費	370,680千円	174,244千円 ~~370,680千円~~	174,244千円 ~~370,680千円~~	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	990千円	860千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入　等

（注）・　設置時の計画を，申請書の様式第２号（その１の１）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合，複数の様式に分ける必要はありません。なお，「（１）校地等」及び「（２）校舎」は大学全体の数字を，その他の項目はＡＣ対象学部等の数値を記入してください。）

・　運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は，その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。

・　「(５)図書・設備」については，上段に完成年度の予定数値を，下段には平成２９年５月１日現在の数値を記入してください。

・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては，変更部分を赤字で見え消し修正するとともに，その理由及び報告年度「（29）」を「備考」に赤字で記入してください。

なお，昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については，見え消しのまま黒字にしてください。

・　校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少，建築計画の遅延）がある場合には，「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

・　国立大学については「（８）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

４　既設大学等の状況

大学の名称	名城大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍			
大学院法学研究科									
法律学専攻									
修士課程	2	15	－	30	修士（法学）	0.40	昭和42年度		
博士後期課程	3	8	－	24	博士（法学）	0.14	昭和44年度		
大学院経営学研究科									
経営学専攻									
修士課程	2	20	－	40	修士（経営学）	0.71	平成13年度		
博士後期課程	3	3	－	9	博士（経営学）	0.59	平成15年度		
大学院経済学研究科									
経済学専攻									
修士課程	2	10	－	20	修士（経済学）	0.37	平成12年度		
博士後期課程	3	3	－	9	博士（経済学）	0.29	平成14年度		
大学院理工学研究科								愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地	
数学専攻									
博士前期課程	2	8	－	16	修士（理学）	0.75	平成14年度		
博士後期課程	3	2	－	6	博士（理学）	0.16	平成7年度		
情報工学専攻									
修士課程	2	30	－	60	修士（工学）	0.76	平成14年度		
電気電子工学専攻									
博士前期課程	2	20	－	40	修士（工学）	1.52	平成14年度		
材料機能工学専攻									
修士課程	2	30	－	60	修士（工学）	1.30	平成14年度		
応用化学専攻									
修士課程	2	24	－	24	修士（工学）	1.04	平成29年度		
機械工学専攻									
修士課程	2	24	－	44	修士（工学）	1.45	平成14年度		平成29年度より名称変更 平成29年度入学定員増（4人）
博士後期課程	3	5	－	15	博士（工学）	0.44	平成4年度		
交通機械工学専攻									
修士課程	2	16	－	32	修士（工学）	1.21	平成14年度		

メカトロニクス工学専攻 修士課程	2	20	－	20	修士 （工学）	1.15	平成 29年度	愛知県名古屋市 天白区塩釜口 一丁目501番地	
社会基盤デザイン工学専攻 修士課程	2	18	－	38	修士 （工学）	0.67	平成 14年度		平成29年度より名称変更 平成29年度入学定員減（△2人）
環境創造学専攻 修士課程	2	8	－	18	修士 （工学）	0.45	平成 14年度		平成29年度入学定員減（△2人）
建築学専攻 修士課程	2	16	－	32	修士 （工学）	0.65	平成 14年度		
電気電子・情報・材料工学専攻 博士後期課程	3	10	－	30	博士 （工学）	0.37	平成 5年度		
社会環境デザイン工学専攻 博士後期課程	3	5	－	15	博士 （工学）	0.22	平成 4年度		
大学院農学研究科 農学専攻 修士課程	2	20	－	40	修士 （農学）	1.27	昭和 48年度		
博士後期課程	3	5	－	15	博士 （農学）	0.20	昭和 51年度		
大学院薬学研究科 薬学専攻 博士課程（4年制）	4	4	－	16	博士 （薬学）	1.71	平成 24年度	愛知県名古屋市 天白区八事山 150番地	
大学院都市情報学研究科 都市情報学専攻 修士課程	2	8	－	16	修士 （都市情報学）	0.62	平成 11年度	愛知県名古屋市 東区矢田南 四丁目102番9	
博士後期課程	3	4	－	12	博士 （都市情報学）	0.30	平成 13年度		
大学院人間学研究科 人間学専攻 修士課程	2	8	－	16	修士 （人間学）	0.40	平成 23年度		
大学院総合学術研究科 総合学術専攻 博士前期課程	2	8	－	16	修士 （学術）	0.22	平成 14年度	愛知県名古屋市 天白区塩釜口 一丁目501番地	
博士後期課程	3	4	－	12	博士 （学術）	0.36	平成 14年度		
大学院法務研究科 法務専攻 専門職学位課程	3	－	－	－	法務博士 （専門職）	－	平成 16年度		平成29年4月より 学生募集停止

大学の名称	名城大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
法学部									
法学科	4	400	－	1,520	学士（法学）	1.07	平成11年度		平成28年度入学定員増（40人）
応用実務法学科	4	－	－	－	学士（法学）	－	平成11年度		平成28年4月より学生募集停止
経営学部									
経営学科	4	215	－	800	学士（経営学）	1.12	平成12年度		平成29年度入学定員増（20人）
国際経営学科	4	95	－	365	学士（経営学）	1.17	平成12年度		平成29年度入学定員増（5人）
経済学部									
経済学科	4	210	－	765	学士（経済学）	1.12	平成12年度		平成29年度入学定員増（25人）
産業社会学科	4	100	－	400	学士（経済学）	1.18	平成12年度		
理工学部									
数学科	4	90	－	345	学士（理学）	1.04	平成12年度		平成29年度入学定員増（5人）
情報工学科	4	150	－	585	学士（工学）	1.16	平成16年度		平成29年度入学定員増（5人）
電気電子工学科	4	150	－	540	学士（工学）	1.11	平成12年度		平成29年度入学定員増（20人）
材料機能工学科	4	80	－	275	学士（工学）	1.20	平成12年度		平成29年度入学定員増（15人）
応用化学科	4	70	－	250	学士（工学）	0.91	平成25年度		平成29年度入学定員増（10人）
機械工学科	4	125	－	485	学士（工学）	1.15	平成12年度		平成29年度入学定員増（5人）
交通機械工学科	4	125	－	455	学士（工学）	1.08	平成12年度		平成29年度入学定員増（15人）
メカトロニクス工学科	4	80	－	305	学士（工学）	1.09	平成25年度		平成29年度入学定員増（5人）
社会基盤デザイン工学科	4	90	－	360	学士（工学）	1.13	平成12年度		
環境創造学科	4	80	－	350	学士（工学）	1.15	平成12年度		平成29年度入学定員減（△10人）
建築学科	4	145	－	550	学士（工学）	1.11	平成12年度		平成29年度入学定員増（10人）
農学部									
生物資源学科	4	110	－	410	学士（農学）	1.15	平成11年度		平成29年度入学定員増（10人）
応用生物化学科	4	110	－	410	学士（農学）	1.12	平成11年度		平成29年度入学定員増（10人）
生物環境科学科	4	110	－	410	学士（農学）	1.10	平成17年度		平成29年度入学定員増（10人）
薬学部								愛知県名古屋市天白区八事山150番地	
薬学科（6年制）	6	265	－	1,515	学士（薬学）	1.07	平成18年度		平成29年度入学定員増（15人）
都市情報学部								愛知県名古屋市東区矢田南四丁目102番9	
都市情報学科	4	220	－	820	学士（都市情報学）	1.05	平成7年度		平成29年度入学定員増（20人）
人間学部									
人間学科	4	220	－	820	学士（人間学）	1.13	平成15年度		平成29年度入学定員増（20人）
外国語学部									
国際英語学科	4	130	－	260	学士（外国語学）	1.09	平成28年度		

（注）・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部，学科），大学院（専攻）及び短期大学（学科）（ＡＣ対象学部等含む）について，それぞれの学校種ごとに，平成２９年５月１日現在の上記項目の情報を記入してください。
・学部の学科または研究科の専攻等，「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には，課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお，課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は，法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」，短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
・専攻科に係るものについては，記入する必要はありません。
・ＡＣ対象学部等についても必ず記入してください。
・「平均入学定員超過率」には，標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第２位まで（小数点以下第３位を切り捨て）を記入してください。
・学生募集を停止している学部等がある場合，入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「－」とし，「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

５　教員組織の状況

＜理工学研究科　メカトロニクス工学専攻（修士課程）＞

（１） 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	井上　真澄	平成29年4月	応用電磁気学特論 電子デバイス学特論 システムデバイス学特別演習・実験ⅠA システムデバイス学特別演習・実験ⅠB システムデバイス学特別演習・実験ⅡA システムデバイス学特別演習・実験ⅡB						
専任	教授	野々村　裕	平成29年4月	センシングシステム特論 知能センサ学特論 センシングシステム特別演習・実験ⅠA センシングシステム特別演習・実験ⅠB センシングシステム特別演習・実験ⅡA センシングシステム特別演習・実験ⅡB						
専任	教授	福田　敏男	平成29年4月	ナノ・マイクロシステム制御特論 ナノ・マイクロ知能システム特論 マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ⅠA マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ⅠB マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ⅡA マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ⅡB						
専任	教授	楊　剣鳴	平成29年4月	先端信号処理学特論 知能システム制御工学特論 制御工学特論 機能システム構築学特別演習・実験ⅠA 機能システム構築学特別演習・実験ⅠB 機能システム構築学特別演習・実験ⅡA 機能システム構築学特別演習・実験ⅡB アドバンスト・インターンシップ						
専任	准教授	市川　明彦	平成29年4月	マイクロロボット学特論 ナノ・マイクロ制御システム特論 マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ⅠA マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ⅠB マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ⅡA マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ⅡB 特別講義Ⅰ 特別講義Ⅱ						
専任	准教授	大原　賢一	平成29年4月	ロボットシステムデザイン学特論 知能ロボット学特論 センシングシステム特別演習・実験ⅠA センシングシステム特別演習・実験ⅠB センシングシステム特別演習・実験ⅡA センシングシステム特別演習・実験ⅡB 移動システム学特論						
専任	准教授	高畑　健二	平成29年4月	計測システム学特論 制御システム学特論 システムデバイス学特別演習・実験ⅠA システムデバイス学特別演習・実験ⅠB システムデバイス学特別演習・実験ⅡA システムデバイス学特別演習・実験ⅡB						
兼担	教授	葛　漢彬	平成29年4月	科学技術英語						

兼担	教授	服部　友一	平成29年4月	科学技術英語						
兼担	教授	藤山　一成	平成29年4月	強度解析モデリング特論						
兼担	教授	Petros Abraha	平成29年4月	科学技術英語						
兼担	准教授	崔　瑛	平成29年4月	科学技術英語	兼担	教授	溝口敦子	平成29年4月	科学技術英語	担当教員退職に伴い担当者を変更(29) 退職年月：平成29年2月 氏名：崔　瑛 理由：他大学へ移籍のため
兼担	准教授	鈴木　温	平成29年4月	科学技術英語	兼担	教授	中村一樹	平成29年4月	科学技術英語	時間割編成の都合により担当者を変更(29)
兼任	講師	坂本　武志	平成29年4月	情報メカトロニクス学特論						
兼任	講師	田窪　朋仁	平成29年4月	機能システム学特論						
兼任	講師	益田　泰輔	平成29年4月	バイオシステム学特論						
兼任	講師	丸山　央峰	平成29年4月	医療機械システム学特論						

（注）・　設置時の様式第３号（その２の１）に準じて作成してください。
・　後任が決まっていない場合には，「後任未定」と記入してください。
・　辞任者は「備考」に退職年月，氏名，理由を記入してください。
・　年齢は，**「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢**を，**「変更状況」には平成２９年５月１日現在の満年齢**を記入してください。
・　教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合（「新規採用」，「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。）は，変更後の状況を記入するとともに，その理由，後任者が決まっていない場合は，「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し，及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
・　**認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は，当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し，大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・　「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」，変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
　なお，設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は，「備考」に「（教員審査省略）」及びその変更の理由，変更年度（　）書き等のみを記入してください。

（２） 専任教員数等

（２）－①　設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
4 名	3 名	3 名

（注）・　大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

（２）－②　専任教員数

設置時の計画				
教　授	准教授	講　師	助　教	計
4 （ 4 ）	3 （ 3 ）	0 （ 0 ）	0 （ 0 ）	7 （ 7 ）
研究指導教	研究指導補	講義のみ		
6 （ 6 ）	1 （ 1 ）	0 （ 0 ）		

現在（報告書提出時）の状況				
教　授	准教授	講　師	助　教	計（Ａ）
4	3	0	0	7
研究指導教員数	研究指導補	講義のみ担		
7	0	0		

現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教　授	准教授	講　師	助　教	計（Ｂ）
4 [　0　]	3 [　0　]	0 [　0　]	0 [0]	7 [0]
研究指導教員	研究指導補助	講義のみ担当の		
7 [　1　]	0 [　△1　]	0 [　0　]		

（注）・「設置時の計画」には，設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに，（　）内に開設時の状況を記入してください。
・「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の５月１日の教員数（実人数）を記入してください。
・「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の５月１日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに，［　］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）

（２）－③　年齢構成

年齢構成		
定年規定の定め	報告書提出時	完成年度時（上記
65 ※H7.4.1以前採用者：72歳 ※H7.4.2～H17.4.1採用者：68歳 歳	1 名	1 名

（注）・「年齢構成」には，当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません），および，平成２９年５月１日現在，定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・なお,職位等によって定年年齢が異なる場合には,職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し，「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
・専門職大学院の場合は，「研究指導教員」を「研究者教員」と，「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

（３） 専任教員辞任等の理由

（３）－①　専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
－	－	－	必修	－	－	該当なし
			選択	－	－	
			自由	－	－	

合計（Ａ）			後任補充状況の集計（Ｂ）					
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
－ 人	必修	－ 科目	必修	－ 科目	必修	－ 科目	必修	－ 科目
	選択	－ 科目	選択	－ 科目	選択	－ 科目	選択	－ 科目
	自由	－ 科目	自由	－ 科目	自由	－ 科目	自由	－ 科目
	計	－ 科目	計	－ 科目	計	－ 科目	計	－ 科目

（注）・　認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
・　「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。
就任した後に辞任した教員は、以下「（３）－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合，赤字にて記入するとともに，
「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、
「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）－②　専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
－	－	－	必修	－	－	該当なし
			選択	－	－	
			自由	－	－	

合計（Ｃ）			後任補充状況の集計（Ｄ）					
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
－ 人	必修	－ 科目	必修	－ 科目	必修	－ 科目	必修	－ 科目
	選択	－ 科目	選択	－ 科目	選択	－ 科目	選択	－ 科目
	自由	－ 科目	自由	－ 科目	自由	－ 科目	自由	－ 科目
	計	－ 科目	計	－ 科目	計	－ 科目	計	－ 科目

（注）・　一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合，赤字にて記入するとともに，「辞任等の理由」
に辞任理由等および（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、
「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記（３）－①　・　（３）－②　の合計

合計（Ａ）＋（Ｃ）			後任補充状況の集計（Ｂ）＋（Ｄ）					
辞任等した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
－ 人	必修	－ 科目	必修	－ 科目	必修	－ 科目	必修	－ 科目
	選択	－ 科目	選択	－ 科目	選択	－ 科目	選択	－ 科目
	自由	－ 科目	自由	－ 科目	自由	－ 科目	自由	－ 科目
	計	－ 科目	計	－ 科目	計	－ 科目	計	－ 科目

（注）・　就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について，教員数、担当科目数の合計，後任補充の状況を記入ください。

（４） 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

（注）・　上記（３）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を
記入してください。

６　留意事項等に対する履行状況等

区　　分	留　意　事　項　等		履　行　状　況	未履行事項についての実施計画
－	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし

（注）・　「設置時」には，当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。） と，それに対する履行状況等について，具体的に記入し，報告年度を（　　）書きで付記してください。

・　「設置計画履行状況調査時」には，当該設置計画履行状況調査の結果，付された意見に対する履行状況等について，具体的に記入するとともに，その履行状況等を裏付ける資料があれば，添付してください。

・　同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。

・　該当がない場合には，「該当なし」と記入してください。

・　「設置計画履行状況調査時」の（年月）には，調査結果を公表した月（通常２月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

７　その他全般的事項

＜理工学研究科　メカトロニクス工学専攻＞

（１） 設置計画変更事項等

設　置　時　の　計　画	変更内容・状況，今後の見通しなど
該当なし	

（注）・　１～６の項目に記入した事項以外で，設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
・　設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し，それ以外の事柄については
適宜項目を設けてください。（記入例参照）

（２） 教員の資質の維持向上の方策（ＦＤ活動含む）

①　実施体制

ａ　委員会の設置状況

理工学研究科では、平成28年4月より理工学部教育改善委員会を拡大して、理工学部・理工学研究科教育改善委員会（以下、教育改善委員会）を設置・運営しています。メカトロニクス工学専攻も、この委員会へ開設初年度から参加し、新設専攻科ならではの視点から、様々な話題や課題を提供することで、理工学研究科のＦＤの取組に協力しています。なお、教育改善委員会に係る規程は、現在、策定中です。

ｂ　委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

教育改善委員会は、年間6回程度の開催を予定しています。加えて、平成29年度は「大学院における横断的教育と実践的なFDフォーラム」と題して、教育改善委員会の主催によるフォーラムを開催することになっています。このフォーラムは、専攻科を超えた横断的教育の在り方、学生の国際性を養うための実質的な海外派遣プログラムの在り方などを議論し、企画実践に結び付けることを目的とし、理工学研究科所属教員のみならず、他大学教職員との自由な意見交換を行います。メカトロニクス工学専攻からも、このフォーラムに多数の教員を参加させ、活発な意見交換を行う予定です。

ｃ　委員会の審議事項等

教育改善委員会では、主として下記の事項等について、審議を行います。
1.学部教育から大学院教育へ円滑に接続する教育システムの構築について
2.横断的教育の在り方について
3.海外派遣プログラムの在り方について
4.大学院における授業評価アンケートの実施方法について
5.その他

②　実施状況

ａ　実施内容

①学部教育から大学院教育へ円滑に接続する教育システムの構築について
②平成29年度FDフォーラムを開催に係る事項
③その他FDに関わる事項

ｂ　実施方法

①各専攻で実施している教育における工夫・改善などの実践例とその効果に関わる情報収集・分析を行い、教育改善委員会において意見交換を行いました。
②教育改善委員会の中に教育の質WGを設置し、教育の質WGが主となりFDフォーラムの取り組み内容を検討しました。

ｃ　開催状況（教員の参加状況含む）

①教育改善委員会を年6回開催しました。
②FD勉強会を開催し、意見交換等を行いました。

ｄ　実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

平成28年度より委員会を設置・運営し始めたばかりのため、具体的な授業改善まで行えておりませんが、各専攻において意見交換や分析等を行いました。

③　学生に対する授業評価アンケートの実施状況

ａ　実施の有無及び実施時期

現状、研究科での授業評価アンケートを実施しておりませんが、教育改善委員会において実施に向け検討しています。

ｂ　教員や学生への公開状況，方法等

上述同様、教育改善委員会において実施方法について検討しています。

（注）・「①ａ　委員会の設置状況」には，関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には，実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（３） 自己点検・評価等に関する事項

①　設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

メカトロニクス工学専攻は、複雑なメカトロニクスシステムの設計をする高度設計者の養成及び、高度なメカトロニクスシステム技術を駆使し、国際貢献できる人材養成を目的として設置されました。
専攻開設後1ヶ月の時点で、設置の趣旨・目的の達成状況の評価として学生の受け入れ状況の検証を行うと、開設初年度である平成29年度の学生受け入れ状況は、入学定員20名に対して、志願者数26名、受験者数26名、合格者数24名、入学者数23名でした。このことから、学生より高い需要があるといえます。また、入学定員超過率は、1.15倍であることからほぼ定員どおり入学者を確保しており、入学定員は適切に管理されているといえます。今後もメカトロニクス専攻は、設置計画に基づき、人材の養成を行っていきます。

②　自己点検・評価報告書

ａ　公表（予定）時期

ｂ　公表方法

本学では開学100周年にあたる平成38（2026）年を目標年とする戦略プラン「Meijo Strategy-2026」【通称：MS-26】を策定しており、毎年、全学版及び各部署版を作成することにより、自己点検・評価に係るPDCAを実施しています。具体的には、各部署が年度当初に立てた事業計画に対して、9月頃に常勤理事との面談を踏まえて中間自己評価を行い、その検証結果を踏まえて次年度以降の戦略プラン見直しや事業計画の立案に反映させています。また、年度末にはMS-26に係る全学的な成果として、「MS-26アニュアルレポート（活動報告書）」を取りまとめ、6月頃に名城大学ホームページに掲載する予定となっています。

③　認証評価を受ける計画

本学は平成27年度に大学基準協会による第2期認証評価を受審し、平成28年3月に「大学基準に適合している」との評価結果を受けました。今後、指摘事項に対して改善に向けた取り組みを行い、教育研究の質保証・向上を目指していきます。なお、メカトロニクス工学専攻については、第3期認証評価において受審する予定です。

（注）・　設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また，「①　設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については，できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお，「②　自己点検・評価報告書」については，当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（４） 情報公表に関する事項

○　設置計画履行状況報告書

ａ　ホームページに公表の有無　　（　有　・　無　）

ｂ　公表時期（未公表の場合は予定時期）　　（　平成29年度分は、平成29年5月末日に公表予定　）